

新世界へ大きく一歩!

平成10年度学位記・修了証書授与式を挙行

トップニュース Top News



満面の笑みで記念の一枚
= 3月25日、石川厚生年金会館前(金沢市出羽町)で

3月25日、石川厚生年金会館で、平成10年度(第47回)学位記・修了証書授与式が行われ、卒業生・修了生計2,315名はそれぞれの第一歩を踏み出した。

式では岡田晃学長が、ギリシアの哲学者プラトンの言葉を引用して「単に生きるだけでなく、よく、美しく生きて、勇ましい高尚な生活を送って欲しい」と告辞し、これから始まる新生活を激励した。

医療短大は最後の卒業式

3月19日には、本年度末で閉学する医療技術短期大学の卒業式が鶴間キャンパスで行われ、専攻科助産学特別専攻などの卒業生21名が思い出深い仲間や校舎に別れを告げた。

同短期大学の専攻科助産学特別専攻は、学科における教育の基礎の上に修業年限1年の課程として設置されていたもので、今回が最後の卒業式となったものである。

(関連記事は2ページ)



経済学部総代の星野あかねさん
= 同上、石川厚生年金会館大ホールで



答辞を読む卒業生総代宮本知子さん
= 3月19日、医学部保健学科会議室で





巻頭言

意識改革



事務局長
あつお
中村 厚生

新年度が始まった。新しい組織や制度がスタートするのも、人事異動等によって職場に新メンバーが加わるのもこの時期である。また、今年度は1900年代最後の年度でもあり、これまでとは違った意識をもって新年度を迎えた方も多いのではないだろうか。

今、国立大学は多くの変革を求められている。いや、自ら改革していかなければ、今後生き残ることはむずかしいといっても過言ではない。まさに、現代社会の少子高齢化、産業構造の変化等の大きな流れの中で、国立大学だけが取り残されてしまうことになる。

大学審議会の答申を受けて、今国会に学校教育法等の改正法案が提案されていることは、すでに御承知のことと思う。すなわち、大学改革の具体化といってよい。しかし、法や制度を改めてより良いものにしても、その実現や実施が本来の趣旨、目的に沿って具現

化されなければ型だけに終わってしまう。そこで、真の改革は関係者の意識の改革を図ることによって、初めて成就するといえよう。

ところが、この意識を変えることほどむずかしいことはない。この4月1日から、セクハラ防止対策や男女格差解消を盛り込んだ改正男女雇用機会均等法がスタートしたが、これも実効性を伴うためには、何よりも意識改革が求められよう。

意識改革は、いくら制度などが変わっても、外的環境が変わらないままではなかなか実現しがたい。建物の新築・改修、組織の新設など目に見えた大きな環境の変化が起こる機会に意識改革を促し、成功した経験がある。本学も、第一期総合移転事業、宝町再開発事業等が進展しているこの時期を、意識改革の大きなチャンスにしたいものである。

27年の歴史に幕

今年度末で閉学する医療技術短期大学の門標が、3月26日、岡田晃学長ら関係者の手によって取り外され、昭和47年の創設以来、27年にわたる歴史に幕を下ろした。

同日、宝町キャンパスの十全講堂で、閉学記念式も行われ、集まった約170人の医療短大関係者らは、懐かしい話にそれぞれの想いをめぐらせた。



門標を取り外す岡田学長(左)
= 3月26日、医学部保健学科で

医療短大の門標取り外し



閉学記念式では、懐かしい顔に思わずにっこり
= 同左、医学部十全講堂で

(関連記事を表紙にカラーで紹介)





創立50周年記念事業後援会から 1億円を受ける

本学の創立50周年事業を支える「金沢大学創立50周年記念事業後援会」の福光博会長が3月17日、岡田晃学長に1回目として1億円の寄附目録を手渡した。

同後援会は、大学が行う記念行事を支援するために昨年2月に組織され、3億円を目標額に設定して、同窓生や教職員等に対して寄附を募ってきた。福光会長は「不況の中の厳しさを感じる」と述べ、岡田学長は「厳しい中の御苦労に大変感謝している」と謝意を表した。

募金は平成12年3月15日まで続けられ、記念事業や記念エリア・散策路の整備などに使われる。



寄附目録を手渡す後援会会長の福光博氏(中央)
= 3月17日、学長室で

創立50周年記念モニュメント完成を祝う

このほど角間キャンパスの大学会館前広場に創立50周年記念「キャンパス2050」モニュメントが完成し、3月20日、同広場に関係者約100人を集めて、モニュメントの完成記念テープカットと渡り初めが行われた。

岡田学長は、「過去を振り返り、現在を見つめ、未来への夢を育てたい。記念事業のメインテーマを『角間から世界へ 未来文化の創造を』に決定した」とあいさつした。その後、1949・1999・2050の年号を記したプロムナードを参加者全員で渡った。



テープカットに臨む(左から順に)廣瀬幸雄学生部長、宮下孝晴「キャンパス2050」検討グループ座長、岡田晃学長、橋本哲哉創立50周年記念事業調整委員会委員長、中村厚生事務局長
= 3月20日、大学会館前広場で



このほど完成したモニュメント「キャンパス2050」検討グループがデザイン)
= 同上

モニュメント・デザイン・コンセプト

創立50周年を祝う「記念モニュメント」であると同時に過去・現在・未来を結ぶ「シンボリック・プロムナード」でもある。半分のアーチは先人たちが築いた財産であり、残り半分は我々が努力してこれから創造していく部分を表わす。

(創立50周年記念事業関係記事は7ページにも掲載)



クリック一つで国際派

マルチメディア外国語学習システムを御披露目

外国語教育研究センターは、3月15日、平成11年度に導入する「マルチメディア外国語学習システム」(CALLシステム)について、教職員を集めてデモンストレーションを行い、岡田晃学長など約30人が機器の説明を聞いた。

このシステムは、画面の英文を見ながら、読み上げ音声をスピーカーから聞くことができる。しかも、読み上げ部分に順次色が付き、そのスピードを自在に変えることもできる。さらには、クリック一つで画面が和訳文に早変わりするという優れたもの。



操作の説明をするシステム作成者の西嶋倫一助教授
= 3月15日、外国語教育研究センター(総合教育棟内)で

若手主導で 「産学交流会」が発足

3月9日、「産学交流の日」として、共同研究センター後藤裕助教授と石川県鉄工機電協会青年部徳野と志一代表幹事の呼びかけにより産学交流会が発足した。

この交流会は、既存産業の市場が成熟する中、石川の技術力と大学の研究成果を結びつける産学連携を目指している。

当日は、産業界から19社の代表者・現場責任者と金沢大学から8人、石川県担当者も加わり30人程の出席を数え非常に盛会であった。今後も交流を重ね、相互理解を深め課題を解決していくことになった。



石川県鉄工機電協会と金大の初の交流会。若手の発想で連携を探る
= 金沢市内のホテル

写真提供
北国新聞(朝刊)平成11年3月10日
付け掲載記事

ハルビン医科大学(中国)と 大学間交流協定を締結

本学は3月20日、ハルビン医科大学と大学間交流協定を締結した。

同校とは、およそ20年前、本学医学部に研修生を受け入れたことをきっかけに、がん研究所の研究者を中心に相互交流を重ねてきたが、がん研究所長が昨年、同校を訪問した際、大学間交流協定の申し入れがあり、このたびの締結となったものである。

今後は、医療スタッフの交流、共同研究などを推進する予定であり、医学分野での国際交流の進展に大きな期待が寄せられている。

本協定の締結により、本学の大学間交流協定校は10か国18大学となった。



ドンリヤンホン
固く握手を交す金連弘ハルビン医科大学長(左)と岡田晃学長
= 3月20日、事務局特別会議室で



両大学関係者
= 同上





各種会合が相次ぐ

産学官連携セミナー

期 日：3月15日・16日
 場 所：北陸先端科学技術大学院大学
 及び金沢大学工学部秀峯会館
 出席者：講師のリチャード・ダッシャー
 教授（スタンフォード大学）
 ほか県内工学系大学関係者等
 約70人



大学等放射線施設協議会 地方研修会

期 日：3月16日
 場 所：KKRホテル金沢（金沢市大手町）
 出席者：文部省学術国際局学術情報課
 馬淵憲治専門員ほか大学等放
 射線施設協議会北陸東海支部
 関係者約80人



金沢大学教養教育 全学研究会

期 日：3月23日・24日
 場 所：サンピア小松（小松市長崎町）
 出席者：教養教育に関わる全学の教官
 等のうち約70人



思い出話しみじみと

「学長と停年退職教官との懇談会」を催す

3月26日、事務局特別会議室で「学長と停年退職
 教官との懇談会」が開催され、出席した11名の退職
 教官が長年の勤務経験の中から様々なエピソードを
 紹介するなどして、和やかなひとときを楽しんだ。

それぞれの印象的な体験談が語られた懇談会の模様
 3月26日、事務局特別会議室で

重油流出事故から2年

日本海域研究所所員らが研究成果を発表

3月26日、工学部秀峯会館で、本学日本海域研究
 所 所長・岡田晃学長 などが主催となって「第2回日
 本海域国際フォーラム in 金沢」を“重油”をメイン
 テーマに開催した。

2回目となる今回は、中国・ロシア・韓国・日本
 といった日本海を囲む国々の14人の研究者が英語を
 交えて発表を行い、一般市民を含む参加者約30人は、
 熱心に耳を傾けた。



「船と海洋の流体力学の逆問題」と題して講演を行う繆國平教授（中国上海交通大學）
 = 3月26日、工学部秀峯会館で

創立50周年を記念して 陶芸家 大樋氏から花器の寄贈

3月30日、学長室で、陶芸家・日展理事審査員 第十代大樋長左衛門氏(元 本学教育学部教授)から、本学の創立50周年を記念して、平成9年度第29回日展理事審査員出品作品「飴釉『角(つの)のある花器』」(高さ70cm、口径20cm)の寄附を受け、学長から感謝状を贈呈した。

作品は、しばらくの間学長室に置かれた後、資料館に移される予定である。



陶芸について想いを語る大樋さん(右)と贈られた花器
= 3月30日、学長室で

文部省職員と本音でトーク!? 若手事務職員との懇談会を開く

3月11日、文部省の若手職員が本学を訪れたことを機に、本学事務局・学生部の若手事務職員とざっくばらんに語り合う懇談会が催された。会では、やや緊張ぎみの本学職員に、文部省の若手3人から省内のハード面・ソフト面等いろいろな話が紹介され、まだ文部省を訪れたことのない本学職員にとっては、興味深いものとなった。



写真奥左から文部省高等教育局長崎一成(教員養成・調査係員(教育大学室)、真子博(附属学校係長(同)、佐藤克憲(大学院係員(大学改革推進室)))
= 3月11日、事務局第二会議室で

金沢大学50年の歩み

50年史編纂室収集資料から
(その9)総合移転整備事業の起工式を挙げる

昭和53年に総合移転を打ち出して以来6年目の昭和59年、移転先の角間キャンパスで、「金沢大学総合移転整備事業」の起工式が行われ、当時の森喜朗文部大臣、金子曾政学長をはじめ関係者約400人が出席した。

式では、金子学長から、『起工、いま』と題する自作の詩(事務通報第35巻第8号参照)も披露され、「地域に根ざした金沢にふさわしい学園を築き上げ、万人が慕いよる最高学府の建設に努力する」とのあいさつがあった。

今日の素晴らしいキャンパスが誕生したのは、関係者の熱意と努力の賜物であり、平成10年4月の“第一期計画事業”の建設起工とあいまって、金沢大学の素晴らしい学府が1日も早く完成することが待ち望まれる。



着工前の角間地区



角間キャンパスのイメージプラン



矢本地権者の会会長と握手する金子学長



新任部局長等の紹介

平成11年4月、以下の方々が新しい部局長等に就任した。(敬称略)

顔写真横の記載は、上から氏名・生年月日・任期・所属の順

<p>学長補佐(教育担当)</p> <p>(学生部長) ひろせ ゆきお 廣瀬幸雄 昭15.11.30 11.4.1~11.9.21 理学部・ 計算機実験 学講座</p> 	<p>学長補佐(学術情報担当)</p> <p>(附属図書館長) はしもとてつや 橋本哲哉 昭16.3.2 11.4.1~11.9.21 経済学部・ 経済史学 講座</p> 	<p>学長補佐(研究・環境担当)</p> <p>(がん研究所長) まいまさよし 磨伊正義 昭13.11.23 11.4.1~11.9.21 がん研究所 ・外科部</p> 	<p>学長補佐(企画担当)</p> <p>なかじまふみお 中島史雄 昭15.10.12 11.4.1~11.9.21 法学部・ 民事法 講座</p> 	<p>社会環境科学 研究科長</p> <p>ひらだてみちこ 平館道子 昭9.9.24 11.4.1~12.3.31 経済学部・ 理論・計量 経済学講座</p> 
<p>自然科学研究科長</p> <p>おだじゅうはち 尾田十八 昭18.1.13 11.4.1~13.3.31 工学部・ バイオニッ クデザイン 講座</p> 	<p>大学教育開放 センター長</p> <p>みやしたたかほる 宮下孝晴 昭24.11.23 11.4.1~13.3.31 教育学部・ 美術教育 講座</p> 	<p>保健管理 センター所長</p> <p>まぶち ひろし 馬淵 宏 昭15.3.10 11.4.1~13.3.31 医学部・ 内科学 第二講座</p> 	<p>資料館長</p> <p>みよしよしあき 三好義昭 昭20.1.27 11.4.1~13.3.31 教育学部・ 技術教育 講座</p> 	<p>埋蔵文化財調査 センター長</p> <p>こうのよしてる 河野芳輝 昭13.2.28 11.4.1~13.3.31 理学部・ 地球計測 物質学講座</p> 

このほか、工学部長に林勇二(任期:11.4.1~13.3.31)、がん研究所長に磨伊正義(任期:11.4.1~13.3.31)、アイソトープ総合センター長に森厚文(任期:11.4.1~13.3.31)、遺伝子実験施設長に山口和男(任期:11.4.1~13.3.31)、留学生センター長に大橋信喜美(任期:11.4.1~13.3.31)の各氏が再任された。

創立50周年記念展示パンフ完成

このほど、5月29日から6月11日まで角間キャンパスを会場として行う「創立50周年記念展示」のパンフレットが完成した。

ページを開くと、過去・現在・未来の順に金沢大学の歩みを分かりやすく紹介している。特に「未来」のページには、50年後の金沢大学キャンパス構想を検討する「キャンパス2050」検討グループが、一般市民や学識経験者の意見も取り入れたプランのいくつかを掲載している。

なお、金沢大学の将来像は、記念式典当日と記念展示の場でCGアニメーションとして公開される。



このほど完成したパンフレット

編集後記

春は多忙。人の出入りがめまぐるしい。

本号にも「卒業」と「合格発表」の2つの記事を掲載した。去る者と入る者。まったく正反対の事項なのに、喜びの顔はどちらも同じく満面の笑み。取材をしていていつも思うことは、慣れた人でない限り、写真を撮られるのは苦手らしいということ。恥ずかしい。単純に嫌。いろいろあるんだろう。けれど、そんな気分も吹き飛ばすほど、今回は皆いい顔をしていた。こちらも嬉しい。

さて、この4月で本紙を創刊から携わり、「センプロカメラマン」、「歩く辞書」のようだった係長が異動になっ

た。「長い間お疲れ様でした。またひとつよろしく願いします」と言いたい。これからは、「アカンサスニュース」は大丈夫か!?なんて言われぬように、新しい係長を迎えたスタッフ一同、心して取り組まないと.....。

そんな状況を気づかってか、「こんな行事があるよ」とか「カメラはこう撮るといいよ」なんてお声を早速かけていただいている。広報紙は、必然的に大学を代表してしまうもの。是非、これからいろいろな面で皆さんに御協力いただき、より多くの人々が携わる広報紙になればと思う。

(黒田)



空を翔んだ日

～合格発表から～



THE DORAKU¹⁰ 版画

卒業生が年々増えて、その分年賀状が増えてどうしたものかと悩んでいたときひらめいたのが版画です。ところがなんと飛び込んだ教室が多色刷り版画。一枚あたり数回ばれんでこする過程があるのに気付かなかった！ しまった！

でも版木に向かってカッターや彫刻刀を使う無心の時間が最高です。これは附属中学校が平和町に移転する直前に作ったものです。広坂の校舎と銀杏の樹は私の青春を知っていますが、今は跡形もありません……。

高見よ志子(附属中学校)



このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成11年4月16日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピース)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

